

---

# 種生物学会ニュースレター No. 37

THE SOCIETY FOR THE STUDY OF SPECIES BIOLOGY NEWSLETTER 37  
October 2008

---

## 目次

第2回種生物学会片岡奨励賞選考報告.....	1
第2回 Plant Species Biology 論文賞選考報告.....	1
Plant Species Biology: Blackwell Synergy から Wiley InterScience への移行のお知らせ.....	2
第40回種生物学シンポジウムと総会開催のお知らせ.....	2
会費納入のお願い.....	2
第40回種生物学シンポジウムのご案内.....	3
書評.....	6
会員異動.....	7
第40回種生物学シンポ参加申し込み用紙.....	8

---

## 第2回種生物学会片岡奨励賞選考報告

第2回片岡奨励賞は、推薦のあった候補者について慎重に検討した結果、以下の2名に授与することを決定いたしました。(五十音順)。

富松 裕 (Univ. of British Columbia)

堂園いくみ (首都大学東京)

なお、第2回の授賞式は12月6日(土)の種生物学会総会で行う予定です。選考理由はその席上で読み上げられ、ニュースレター38に掲載されます。(片岡奨励賞選考委員会委員長 角野康郎)

## 第2回 Plant Species Biology 論文賞選考報告

第2回種生物学会論文賞 (Plant Species Biology Best Paper Award 2008) 選考に関してご報告させていただきます。種生物学会論文賞の選考は、会長から委嘱された工藤岳、北村系子、加藤真、川窪伸光、小林剛、大原雅(以上、Plant Species Biology 編集委員) 6名の選考委員で行いました。今回は、PSB2007, Volume 22 (3), PSB2008, Volume 23 (1-2)に掲載された Regular Paper (22編) を対象とし、各委員の投票による選考を行いました。その結果以下の2編の論文が第2回種生物学会論文賞に決定いたしました。

- Kazuo Suzuki, Ikumi Dohzono and Kayako Hiei : Evolution of pollinator generalization in bumblebee-pollinated plants. PSB (2007) 22: 141-159.
- Jennifer M. Ramp Neale, Tom A. Ranker and Sharon K. Collinge : Conservation of rare species with island-like distributions: A case study of *Lasthenia conjugens* (Asteraceae) using population genetic structure and the distribution of rare markers. PSB (2008) 23: 97-110.

両論文の筆頭著者には楯と賞状。そして共著者全員に賞状をお贈りさせていただきます。また、表彰式は、12月6日(土)の種生物学会総会で行う予定です。(Plant Species Biology 論文賞選考委員会委員長 大原 雅)

---

## Plant Species Biology

### Blackwell Synergy から Wiley InterScience への移行のお知らせ

皆様ご存じのように、Plant Species Biology (PSB)を出版してきた Blackwell 社と John Wiley & Sons 社が昨年合併し、現在は Wiley-Blackwell 社として、PSB が出版されています。この合併に伴い、Wiley-Blackwell 社は 2009 年に新しいオンラインプラットフォームの開始の準備をしております。その第一段階として、2008 年 7 月 1 日にこれまで Blackwell 社のオンラインジャーナルで使われておりましたサービスの 1 つ Blackwell Synergy が Wiley InterScience という名称に変更になりました。従って、これまでの Blackwell Synergy に収録されていたジャーナルはすべて Wiley InterScience で閲覧できるようになっています。詳細は以下のホームページ（日本語）をご覧ください。

<http://www.wiley.co.jp/WIS/userguide.html>

これは Wiley-Blackwell 社 (旧 Blackwell 社) のが出版しているすべての本・ジャーナルの検索・閲覧システム上の変更で、種生物学会会員の皆様の情報設定の変更を必要とするものではありませんのでご安心下さい。ただし、既にお使いの方はお気づきかと思いますが、My Synergy としてご利用頂いていたパーソナルページは My Profile と名前が変わっているものがあります。

Plant Species Biology もオンライン投稿システムが稼働して約 1 年が経ち、お陰様で投稿数も順調に増えております。今後は、この Wiley InterScience のサービスの 1 つである accepted 論文の早期 web 掲載システム Early View (旧 Online Early) の導入なども検討しております。

今後も、オンラインシステム上の変更などがありましたら、随時種生物学会ホームページ等でもご案内させていただきます。

以上、よろしく願い致します。

(Plant Species Biology 編集委員長 大原 雅)

### 第 40 回種生物学シンポジウムと総会開催のお知らせ

第 40 回種生物学シンポジウムは、2008 年 12 月 5 日 (金) - 12 月 7 日 (日) に開催され、企画シンポジウムの他にポスター発表も行われます。それにあわせて、総会と片岡奨励賞、Plant Species Biology 論文賞およびポスター賞の授賞式を行います。多数の学会員の参加をお待ちしています。

また、以下の委員会を開催します。各委員は、それぞれの委員会に出席願います。

日時：2008 年 12 月 5 日 (金) 場所：デュープレックスセミナーホテル (茨城県守谷市)

13:00-14:30 和文誌編集委員会；14:30-16:00 英文誌編集委員会；16:30-18:30 幹事会

(会長 可知直毅)

### 会費納入のお願い

種生物学会の会費は前納制です。2009 年度の会費を下記あてお振込み下さい。会費は、一般会員 12000 円、学生会員 6000 円です。特に 2008 年度までの会費に未納金がある方はお急ぎ納入して下さい。お振込み頂く金額 (2009 年度分を含む) は宛名ラベルの右下に記してありますので、ご確認下さい。

郵便振替番号 00240-6-45544 加入者名 種生物学会

(会計幹事 西谷里美)

## 第40回 種生物学シンポジウムのご案内

今年の種生物学シンポジウムは、2008年12月5日（金）－12月7日（日）に、デュプレックスセミナーホテル（茨城県守谷市）で開催されます。1日目（12月5日）夜のプレシンポでは、長年、高山帯植物の研究をされてこられた静岡大学の増沢武弘教授をお招きし、アンデスやヒマラヤの高山帯に生育する一回繁殖型の植物の生活について、ご講演をしていただきます。2日目（12月6日）には、亜熱帯の小笠原島嶼に持ち込まれた外来樹木の島内での分布拡大の実態や生態系に与える影響と、外来樹木の分布拡大を可能にしている生理基盤特性について、3日目（12月7日）には、遺伝子から適応や進化の謎にせまるシンポジウムを企画しております。また企画シンポ以外に、ポスター発表を受け付けております（ポスター賞もあります）。皆様の親睦と議論を深めるためにも、例年どおり泊まりがけで行います。皆様ふるってご参加ください。

今回、託児室の設置を検討しております。種生物学シンポジウムで初めての試みでもあり、実際の運営につきましては未確定な部分が多くあります。会員の皆様からのご意見、ご希望、申込状況を把握したのち、ベビーシッターや託児室の利用料金等を考えたいと思います。大会参加申し込み時に、託児室利用や人数（年齢）、食事予定を把握したいと考えておりますので、ご協力をお願いします。料金とのかねあいになりますが、利用者が少なければ、保護者が交代でみる可能性もできます。希望者がある場合、運営について事務局とまた個別に相談させていただきます。

第40回種生物学シンポジウム実行委員長 堀 良通（茨城大学理学部）

第40回種生物学シンポジウム事務局代表 石田 厚（森林総合研究所・植物生態研究領域）

開催日時：2008年12月5日（金）午後5時－7日（日）午後4時

会場：デュプレックスセミナーホテル

〒302-0119 茨城県守谷市御所ヶ丘 4-3-1

TEL:0297-21-1200 FAX:0297-47-8012

<http://www.retec-duplex.co.jp/shinmoriya/main.html>

### プログラム（仮）

#### 12月5日（金）

17:00 一般受付開始、ポスター貼り付け開始

18:00 夕食（予約者のみですので申し込み時にお間違いなく）

19:00－20:00 プレシンポ

- 増沢武弘（静岡大・理）：高山に生き続ける1回繁殖型植物の成長－アンデスのセンチュリープラント・ヒマラヤのセイタカダイオウ

20:00－12月7日の朝まで ポスター展示・発表

#### 12月6日（土）

9:00－16:00 シンポジウム

小笠原生態系への外来樹種の侵入とかく乱－外来樹種の森林動態と生理機能－

企画者 石田 厚（森林総合研究所・植物生態研究領域）

講演予定者と仮タイトル

- 清水善和（駒沢大）：小笠原の外来樹木30年間の動態：マツとアカギを中心に

- 畑 憲治 (首都大・理工) : モクマオウの侵入が在来樹種の定着に及ぼす影響
- 安部哲人 (森林総研) : 母島最後の聖域・石門湿性高木林におけるアカギの侵入過程とその対策
- \*石田 厚・山下直子 (森林総研) : 光変動環境に対するアカギと在来樹種の反応
- 大曾根陽子 (森林総研) : 栄養塩変動環境に対するとアカギと在来樹種の反応
- 平舘俊太郎 (農環研) : 小笠原諸島における植生の群落タイプと土壌の化学的特性の関係ーアカギは  
どんなところに侵入しているか

16:30—17:30 種生物学会 2008 年度総会

18:30—19:00 片岡奨励賞・Plant Species Biology 論文賞・ポスター賞の授賞式

19:00— 懇親会

12月7日(土)

9:00—16:00 シンポジウムII

遺伝子レベルからみた適応進化ー生態学と機能ゲノミクスの接点を探るー

企画者 永野 惇(京大・院理)・森長真一(九大・院理)

講演予定者と仮タイトル

- 平井優美 (理化学研究所・植物科学研究センター、JST・CREST) : 代謝の多様性から代謝システムの  
の解明へ
- 大林 武 (東大・医科研) : 遺伝子共発現データベース ATTED-II を用いた機能モジュールの探索
- 永野 惇 (京大・院理) : 遺伝子発現量多型と全ゲノム関連解析
- 石川 亮・\*木下 哲 (奈良先端科学技術大学院大学、バイオサイエンス研究科) : ゲノムインプリ  
ンティングを介した生殖隔離
- 森長真一 (九大・院理) : 低地から高地へ: 生態ゲノム学で探るシロイヌナズナ近縁種の環境適応
- 田中健太 (筑波大・菅平高原実験センター) : *Arabidopsis lyrata* の局所適応とその遺伝子探し
- \*土松隆志 (東大広域システム・チューリヒ大)・清水健太郎 (チューリヒ大) : シロイヌナズナ属に  
おける自殖性の起源: 平行進化のメカニズムを探る
- 相川慎一郎 (神戸大学大学院・理学研究科・生物学専攻) : シロイヌナズナ属多年草におけるフェノ  
ロジー調節の分子的基盤

シンポジウム事務局からその他のお知らせ

- シンポジウム I, II とも講演者や演題はまだ確定ではありません
- 宿泊、食事は予約者のみです。食事の当日受付はできません。申し込みの時にお間違いないように  
して下さい
- 入浴時間: 6:00~10:00, 15:00~0:00
- 浴衣、タオルは各部屋に付きます

シンポジウム事務局への問い合わせ

〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合  
研究所 植物生態研究領域

第40回種生物学シンポ事務局 石田 厚まで

e-mail: psb2008@ffpri.affrc.go.jp

Te1: 029-829-8219

Fax: 029-829-8350

参加申し込み

10月31日(金)までに、第40回種生物学シ  
ンポ事務局まで参加申し込み用紙に従い、e-mail、  
FAX、または郵送にて下記までお送りください。

e-mail: psb2008@affrc.go.jp

Fax: 029-829-8350

〒305-8687 茨城県つくば市松の里1  
森林総合研究所 植物生態研究領域 樹木生理研  
究室  
第40回種生物学シンポ事務局 石田 厚

注1 e-mail の場合、参加申し込み用紙を見て、  
必要事項をお書きください。

注2 託児室の利用の希望者は、大会参加申し込  
み時に人数（年齢）、お食事の予定をご記  
載ください。後日個別に、どのように運  
営したら良いか、事務局と相談させていた  
だきたく存じます。

### ポスター発表の募集

ポスターセッションも行います。ポスター発表の  
申し込みは参加申し込み用紙と同時に、10月3  
1日（金）までに第40回種生物学シンポ事務局ま  
でお送りください。ポスター賞選考に応募するか  
どうかのチェックも忘れずをお願い致します。

ポスターボードのサイズ

210cm（縦）× 90cm（横）

### 参加費・宿泊費・食費代の振り込み先

ゆうちょ銀行（はるる振り込み）

記号：10670 番号：14505771

名義人：ダイオンジュウカイシュセイブツガクシ  
ンポジッコウイインカイ

（第40回種生物学シンポ実行委員会）

### 参加費・宿泊費・食費

10月31日（金）までに、必要合計金額をお  
振り込みください。振り込み手数料は各自負担で  
お願いします。

参加費	一般（会員）	5,000円
	一般（非会員）	6,000円
	学生（会員）	2,000円
	学生（非会員）	3,000円

### 宿泊・食費

12月5日（金）泊（6日朝食付）

一般	6,000円
学生	4,000円
夕食	1,000円

12月6日（土）泊（6日昼食と懇親会、および7  
日朝食付）

一般	11,000円
学生	9,000円

12月7日（日）

昼食	1,000円
----	--------

### その他

宿泊・食事は、事前の申し込みと代金を振り込ん  
でいただく必要があります。予約を変更される場  
合は、お早めに事務局までご連絡ください。11月  
20日（木）以前の変更は全額精算できますが、それ  
以降の場合、宿泊先にキャンセル料を払う必要が  
あります。

### 会場へのご案内

デュープレックスセミナーホテル

<http://www.retec-duplex.co.jp/shinmoriya/main.html>

〒302-0119 茨城県守谷市御所ヶ丘4-3-1

TEL:0297-21-1200 FAX:0297-47-8012

車を利用の方：常磐自動車道・谷和原インターチ  
ェンジから5分。駐車場もありますが、多くの台  
数は利用できませんので、できる限り公共交通機  
関をご利用下さい。

電車を利用の方：

- 関東鉄道常総線 新守谷駅から、徒歩12分。
- つくばエクスプレスの守谷駅→関東鉄道常  
総線で新守谷駅まで約3分。
- JR常磐線の取手駅→関東鉄道常総線で新  
守谷駅まで22分。

高速バスを利用の方：東京駅八重洲南口高速バス  
乗り場で「守谷・水海道・岩井・猿島行き」に乗  
車。新守谷駅入口バス停にて下車（約50分）、徒  
歩10分。

詳しくはデュープレックスセミナーホテルのホー  
ムページをご覧ください。

---

書評：保全遺伝学入門 R. Frankham, J. D. Ballou, D. A. Briscoe 著／西田睦  
監訳 （文一総合出版）

生物の大量絶滅によって生物多様性が失われつつあることが指摘され、保全生物学という分野が広く認識されたのは1980年代のことである。初期の保全活動は主に対象種の個体数増加に力を注ぎ、近交弱勢などの遺伝的な側面は無視されていた。そこで、保護対象種の遺伝的な損失をも考慮に入れた学問分野が保全遺伝学であり、実際、集団遺伝学を応用することで、保全活動の効率や成功率は飛躍的に上昇した。一方で、保全遺伝学は非常に新しい学問分野であり、未だ急速に発展し続けている。

本書は2002年に出版された、Frankham、Ballou、Briscoeによる”Introduction of Conservation Genetics”の全訳である。三部に分かれた、全20章から構成されており、保全生物学・集団遺伝学の基礎から、保全を行う上での遺伝的多様性の重要性、そして最後には実例を紹介しながらの実証的な保全遺伝学について書かれている。各章のわかりやすいまとめや、巻末の用語集は、初めて保全遺伝学に触れる人にとって理解しやすい作りであると同時に、多彩なケーススタディと対象種の美しいイラストは読み手を飽きさせない。また、引用文献も豊富であり、各章末には関連する文献の紹介も載っているため、保全遺伝学を専門とする研究者にも大変参考になる。

内容を追っていくと、まず冒頭で保全生物学の意義について触れた後、第一部からは主に集団遺伝学の基礎的原理について述べられている。ヘテロ接合度やハーディーワインベルグ平衡などの基礎的な要素については丁寧な説明がされているため、専門知識がなくても十分理解することができる。また、集団遺伝学で用いられる分子遺伝学的手法についても紹介されており、集団遺伝学の入門書としても利用することができる。

第二部では遺伝的多様性の消失がいかに有害であるかについて説明している。個体数の減少は遺伝的多様性の減少も伴い、例え保護を通して個体数が回復したとしても、遺伝的な多様性は元の状態に戻らない場合が多い。遺伝的多様性の消失は集団の近親交配を促進し、生存力や繁殖力に悪影響を与える近交弱勢が生じる。また、集団が環境の変化に適応する潜在能力である、遺伝的なバリエーションも減るため、進化の可能性も失うことになる。しかしながら、これらの遺伝的リスクは保護する際の個体数や交配の組み合わせなどを計画的に行うことで軽減することができる。したがって、いかなる保全活動も遺伝的な側面が考慮されるべきであるということが強調されている。さらに第二部の最終章では、保全を行う際の必要最低限の集団サイズについて触れられているが、多くの保全集団の個体数が理論的に必要とされる個体数に遠く及ばないという危険性を指摘している。

最後に第三部では、実際に保全が必要であると判断された場合、どのような計画の下で管理が行われるべきか検討している。ここでは野生集団を管理する場合、野生集団から飼育集団を確立する場合、また、飼育集団から野生に再導入する場合の注意点がケーススタディと共に紹介されている。現状における保全計画の成功率は決して高いとは言えないが、遺伝的な面を考慮した計画が必要不可欠であることは明らかである。

本書は大学の講義で教科書として用いられることが想定されているため、各章末には演習問題と解答があるというユニークな構成になっている。また、重要な単語は太字で強調するなど、専門知識の無い読者にとって非常に有難い作りになっている。一方で、豊富なページ数（751ページ）により、専門的な部分も十分に網羅している。したがって、本書はこれから保全遺伝学を学ぶ人への教科書として、また、専門分野にいる人には参考書として最適な本と言える。

（北海道大学環境科学院生態遺伝学コース 久保田渉誠）

会員異動（2008年9月7日まで）

新入会

[Redacted text block]

[Redacted text block]

種生物学会ニュースレター37

発行 種生物学会

<http://sssb.ac.affrc.go.jp>

編集 木下栄一郎（庶務幹事）

〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学環日本海域環境研究センター植物園

発行日 2008年10月1日

印刷所 金沢電子出版株式会社

